

# ホタルプロジェクト

代表者	寺本明広（農学B 4年）
構成員	藤田哲郎（理学B 4年） 志岐和美（農学B 3年） 岩崎智子（教育B 3年） 澤聖花（教育B 3年） 宮崎由貴子（教育B 3年） 上坂千夏（人文B 2年） 納富昭吾（農学B 2年） 前田篤司（農学B 2年） 小林北斗（農学B 2年） 祝出真希（理学B 2年） 水野諭（工学B 2年） 野村美樹（人文B 1年） 岡崎大（農学B 1年） 岡部一馬（農学B 1年） 金谷洋祐（農学B 1年） 川上恭平（農学B 1年） 国武加那子（農学B 1年） 佐藤颯音（農学B 1年） 高橋良嘉（農学B 1年） 田中宏美（農学B 1年） 石田敬大（理学B 1年）

## 1. プロジェクトの目的

山口大学吉田キャンパス内の豊かな自然環境を元にホタルが飛び交うキャンパスづくりを目的とする。

## 2. プロジェクトの内容

- ①ホタルの生態の研究を行う。
- ②山口大学内に生息するホタルの増殖のため、ホタルの飼育・放流やホタルの住む水路整備を行う。
- ③山口大学内のホタルの現状の広報活動を行う。

## 3. プロジェクトの背景

ゲンジボタルはホタルの代表種である。夏の始めに飛び始め、その美しい光によって昔から人々に親しまれてきた。ホタルはきれいな川でしか暮らしていけないといわれ、また、ホタルがすむ川では生物多様性に飛んでいるといわれ、環境指標生物として扱われてきた。

山口大学吉田キャンパス内でもホタルが飛んでいる。しかし、その数は昔に比べ少なくなってきたといわれている。そこで、山口大学でホタルの飛び交う風景を取り戻すために、2007年度より大学がホタル再生計画を立ち上げたのが本プロジェクトの始まりである。そのプロジェクトに賛同する学生が集い 2008年に結成されたのが「ホタゆに」である。

## 4. 活動報告

### ・ホタル飛翔数

5月10日に今年の山口大学ホタルを初観測した。その日から6月26日まで毎日、夜8時と9時に山口大学内のホタルを数えていきました。数え方は、発光しているホタルを目視で確認するものとする。

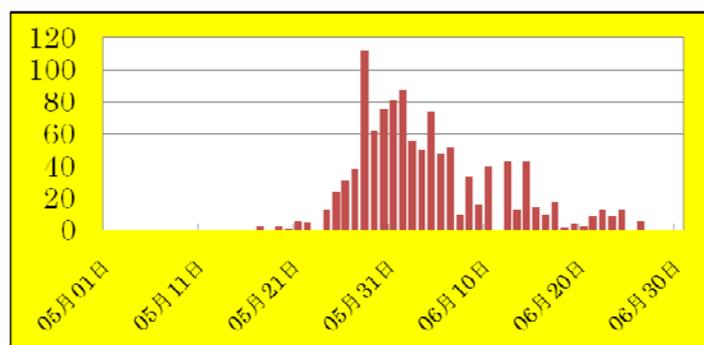


図1 ビオトープのホタルの飛翔数推移 (20時台)

・ホタル飼育

山口大学内でホタルの成虫を採集し、卵からホタルの飼育を始めた。放流予定のビオトープでは産卵場所がない、ホタルの幼虫が好む日影が少ない、水量が少ない、といった問題が考えられるためホタルの幼虫の飼育の必要がある。今年、国際2匹目のどじょう賞の時に40匹のホタルの幼虫を放流しました。

2010年度の飼育場所（屋外実習棟、農学部棟地下室）はあまりホタルの飼育にふさわしい環境でなかった。そこで、2011年度は共通棟の地下の部屋で飼育を行う予定である。



写真1 ホタル採集



写真2 ホタルの卵



写真3 ホタルの幼虫



写真4 ホタル放流



写真5 ホタル飼育予定の部屋

### ・ビオトープの管理

山口大学吉田キャンパス男子寮の前にビオトープがある。このビオトープはホタルを飛ばす目的で3年前につくられて、私たちもビオトープの管理にかかわっている。月に一回、雑草の除去や余分な土を取り除いたりしている。ビオトープの水不足が問題で、今年の8月末から9月の半ばまで水の供給が途絶えることがあった。水不足の対策として、2010年秋にビオトープの上流付近にて井戸を掘り、井戸水をビオトープに流すことで水を確保している。



写真6 ビオトープ清掃



写真7 完成した井戸

### ・環境展

10月2日山口大学で行われた「わん！」で環境展をブースで出した。内容は、自転車発電機、エネルギーのかばん、夜の地球儀、手回し発電機、省エネ対決ボックス、油を分解する水の量、地球温暖化パネル、学内ビオトープの生物展示、ホタルプロジェクトの説明ポスター、といった展示を行った。



写真8 エネルギーのかばん



写真9 ビオトープの生物展示



写真10 地球温暖化パネル



写真11 自転車発電機

・国際2匹目のどじょう賞

10月16日山口大学でイグノーベル賞の日本版「国際2匹目のどじょう賞」が開催された。ホタルプロジェクトは環境部門で入賞した。

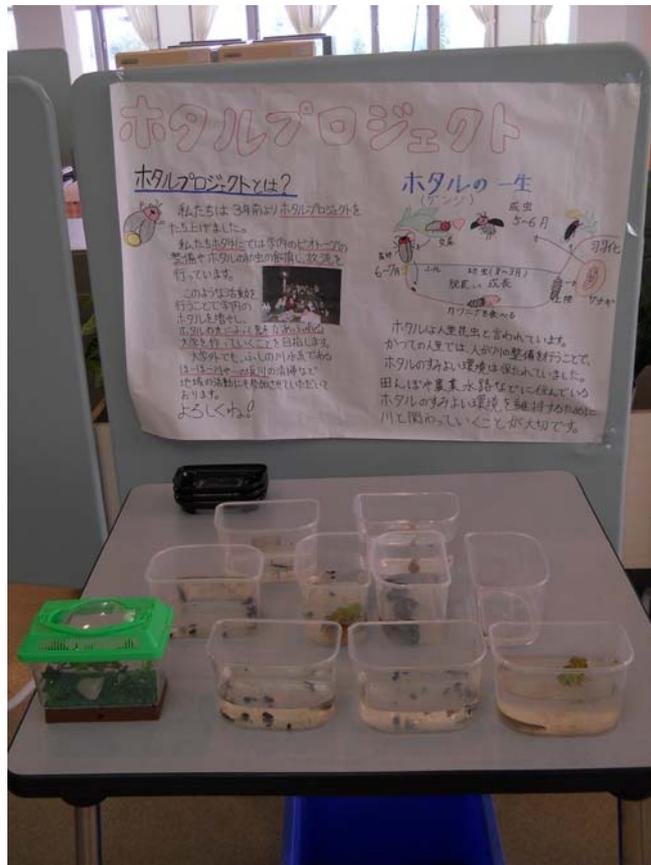


写真12 ホタルプロジェクトのポスター学内ビオトープの生物の展示



写真13 国際2匹目のどじょう賞表彰式